

研究指定校名 : 米子市立啓成小学校

## 1. 学校の概要

学校名	米子市立啓成小学校
学級数	15学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全児童数：281人（令和2年1月1日現在）
URL	<a href="http://www.torikyo.ed.jp/keijo-e/">http://www.torikyo.ed.jp/keijo-e/</a>

## 2. 調査研究のテーマ

### (1) 調査研究のテーマ

#### 【中学校区研究主題】

一人ひとりを大切に、互いに認め合い、高め合う子どもの育成  
～保・幼・小・中の一貫した人権・同和教育の実践を通して～

#### 【本校研究主題】

いきいきと思考し、ともに高め合う子どもの育成  
～前のめりの対話と学びにつながる授業を通して～

### (2) 調査研究のテーマを設定した背景

東山中学校区では、平成30年度に「東山中学校区人権・同和教育推進協議会」において、本校区の保・幼、小、中の子どもたちにつけたい力を示した15年プランの見直しを行った。「基本的生活習慣の確立」「コミュニケーション能力の育成」「人権感覚の育成」「自尊感情の育成」を柱に家庭、地域、学校、園が一体となって校区的子どもたちを育てていくことを確認した。

本校では、人権教育を基盤とした教育目標「新しい時代を創造する人間性豊かなたくましい子の育成」を掲げている。グローバル化、情報化など急激な社会変化の中で、自ら問いを立て、主体的に判断し、課題を解決するとともに、いたわりと思いやりの心を持ち、友達の思いを受け止め、共にかかわり合う中で自分を伸ばすことが大切であると考えた。

それを受け平成28年度より、新学習指導要領改訂の趣旨に沿った「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりと安心・安全な学級づくりの研究を進めてきて、ある一定の成果を上げた。しかしながら、児童一人ひとりを見ると、自ら課題を発見し、他者と対話的に学び、主体的に課題を解決しようとする力に欠ける児童や、自己表現と他者理解の不足から人間関係づくりに困難さが見られる児童がいた。

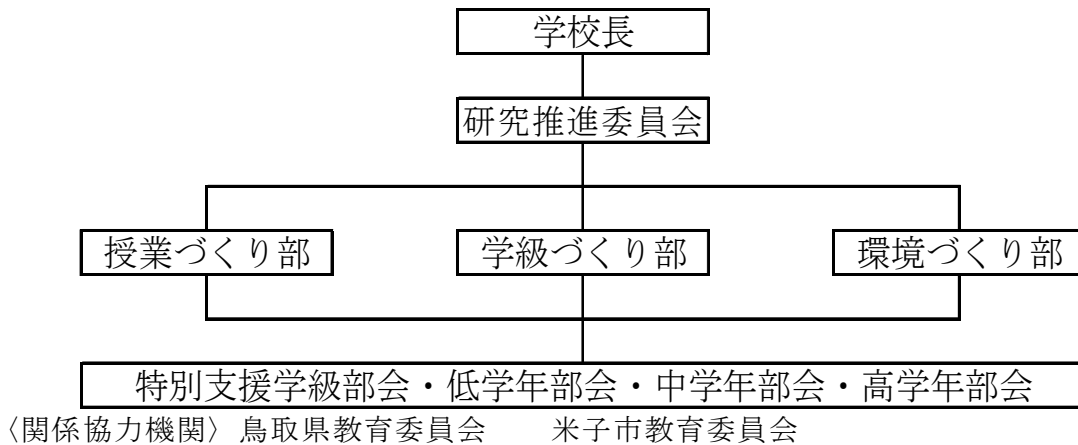
そこで、これらの課題を克服していくためには、さらに人権教育を推進し、日々の授業における活動一つ一つが、人権尊重の雰囲気や醸成する上で重要な要素となると考える。そのためには、授業に参加しているという実感や自分が必要とされているという実感をもたせる「自己存在感をもたせる支援の工夫」、自分が受け入れられていると実感できる雰囲気や、共に仲間だと実感できる雰囲気をつくる「共感的人間関係を育成する支援の工夫」、学習課題や振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する「自己選択・決定の場の設定の工夫」等が必要だと考えた。こうしたことを通して、主体的・対話的で深く学ぶよさを児童が体験的に実感でき、自ら思考し、高め合う子どもを育成することができると考えた。また授業づくりと学級づくりは相互に関係しており、授業の中で学級の雰囲気や好ましい人間関係がつけられると考え、研究主題を「いきいきと思考し、ともに高め合う子どもの育成」と設定した。

### (3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	<input type="radio"/>
②子供	<input type="radio"/>
③高齢者	<input type="radio"/>
④障害者	<input type="radio"/>

⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他 ( )	

### 3. 調査研究の推進体制



### 4. 調査研究の内容等

#### (1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりと、安心・安全な学級づくりの研究を進めてきた結果、別表のように、自尊感情が高まり、友達とのかかわりの中で、自分の考えを深めたり広げたりすることができたと実感している児童が増えてきた。

◆別表：全国学力・学習状況調査より（質問紙調査）

	平成29年度	平成30年度
自分には、よいところがあると思いますか。	本校 77.4%(全国 77.9%)	本校 91.4%(全国 84.0%)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	本校 66.6%(全国 68.2%)	本校 80.0%(全国 77.9%)

しかしながら、平成29年度末に実施した「人権学習に関する意識調査（米子市教育委員会作成）」の結果を見ると「あなたは、自分自身がまわりの友達を差別せず、大切にしていると思いますか」という質問に対して9%の児童が「あまりそう思わない」と回答し、また「あなたは、友達が差別やいじめを受けている知ったとき、どうしますか」という質問に対しても9%の児童が「なるべくかかわらないようにする」と回答している。

そこで、本校の児童にとって、児童同士がかかわり合い対話する力を生かし、学びをさらに深めたり、友達との関係づくりを構築したりすることが、本校の大きな課題として考えられる。

(調査研究の内容)

### 【研究の仮説】

- 仮説① 授業等によって、主体的・対話的で深く学ぶよさを児童が体験的に実感することができれば、自ら思考し、高め合おうとする子どもを育成することができるだろう。
- 仮説② 授業づくりと学級づくりは、相互に関係しており、授業の中で学級の雰囲気や好ましい人間関係がつけられ、また、安心・安全な学級の雰囲気が充実した学習につながると考える。授業づくりと学級づくりが相乗効果をもたらすことで、児童の資質・能力をより一層高められるだろう。
- 仮説③ ①、②の仮説が人権が尊重される授業づくりにつながるだろう。

### 【研究の内容】

#### ①授業づくり

##### ●「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした学びのしかけ【発問・活動・振り返り】

###### ○主体的な学びの喚起・継続・拡散

- ・目的(つきたい力)と見通しをもった学習と満足できる授業(めあて、まとめ、振り返り)の推進
- ・知的好奇心を喚起する魅力的な課題提示の工夫
- ・主体性を持続するための手立て(対話的な学びの活用)の工夫

###### ○有機的・意図的な対話的学び

- ・目的を明確化した対話的な学びと指導案への記述
- ・対話的な学びの学習効果を児童が実感する取組の充実
- ・言葉の力を育成するための手立て(話し合い指導、学習用語の獲得・活用)の工夫

###### ○深い学びの促進

- ・各教科の見方・考え方をはたらかせる学習の充実
- ・ゴールイメージの明確化による焦点化と評価(学びの深化のための学びのつながり)の充実
- ・思考ツールの活用(学びの過程の中で、「知識を相互に関連づけてより深く理解する」「情報を精査して考えを形成する」「問題を見い出して解決策を考える」「思いや考えをもとに創造する」)

##### ●授業を支える教師の手立て

###### ○教師の指導技術と役割

- ・学びをつなぐ働きかけ、見取りの実施  
(比重を意識したタイムマネジメント、意図的指名、ファシリテートなど)
- ・教科にかかわる知識・理解の深化

#### ②学級づくり

##### ●安心・安全な学級づくり

###### ○安心・安全な学級づくりのための手立て

- ・個別の関係(教師-児童、児童-児童)づくり、ルールづくり、自己有用感・自尊感情を高める取組の推進
- ・SST(ソーシャルスキル・トレーニング)によるSSの向上
- ・15年プランを基にした人権学習の推進

##### ●手順を経て自治的な学級づくり

###### ○自治的な学級づくりのための手立て

- ・学級力の可視化と有効活用
- ・自治的な学級づくりのための教師のリーダーシップの育成
- ・年2回のQ-U調査の実施と分析、ほっと相談(カウンセリング)の実施

#### ③環境づくり

##### ●学級づくりの促進

###### ○仲間の視覚化

- ・仲間からのポジティブメッセージ掲示
- ・基本的生活習慣の確立

### ●学びの促進

#### ○学びの視覚化

- ・学びの足跡の視覚化
- ・学び方(基本的な学習サイクル、対話的学びを促進することばなど)の視覚化
- ・学校行事、学年の取り組み(幼・保小中や地域との交流など)の校内掲示の充実

(実施方法)

#### ○授業改善

- ・主体的な学びにするため、つきたい力の明確化とそこをめざした魅力ある課題づくりに取り組んだ。
- ・発達段階に応じた対話の方法を考え、授業に組み込んだ。
- ・対話を焦点化し、対話量を確保するため、授業のタイムマネジメントを大切に考えた。

#### ○互いに認め合うことのできる豊かな人間関係を築く

- ・児童に4領域8項目に関するアンケートをとり、そのアンケート結果をもとに可視化ツール(レーダーチャート)を作成し、学級のめざす姿の達成度を可視化できるようにしている。PDCAサイクルにより、どのようにしたら下がっている項目がよくなるか学級力会議で話し合い(P)実践し(D)二週間後の学級力タイムにおいて、振り返り(C)再び行動する(A)を行ってきた。このPDCAサイクルは、年に5回設定し、全校で取り組んだ。



【学級力会議】

- ・月に1~2回、全校で4観点(集団行動・セルフコントロール・仲間関係・コミュニケーション)を盛り込んだSST(ソーシャルスキルトレーニング)に取り組んだ。学校として、重点的に行いたい観点の内容を提示し、全学級同じ内容を行った。
- ・仲間づくりの可視化と学びの可視化に努めた。



【仲間づくりの可視化(ほめ言葉の掲示)】



【学びの可視化(道徳のあしあと)】

(検証・評価・普及)

#### ○成果

- ・対話的な学習を行うために効果的な発問を考えることで教材研究が深まり、学力向上にもつながった。【集計結果1】

〈平成30年度と令和元年度の国語、算数診断テスト結果比較〉

算数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成30年度正答率(%)	91	78	68	66	63	64
令和元年度正答率(%)	92	79	84	78	57	74
国語	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成30年度正答率(%)	89	71	76	78	83	79
令和元年度正答率(%)	89	78	86	86	71	83

【集計結果1】

- ・学級力会議を定期的に行うことで、自治的な動きが生まれ、学級が安心して過ごすことのできる場になってきている。

【集計結果2】

- ・学級力会議等の可視化により、「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気ができ、それが、対話的な学習の活性化にもつながった。

< Q-U調査結果比較 >

満足群上昇	12学級中9学級	
要支援群の人数	1回目	2回目
	15人	8人

【集計結果2】

○課題

- ・対話的学習に取り組むために、タイムマネジメントも大切にしたい。タイムマネジメントがうまくいかないことで、前のめりな対話のある授業にならないこともあった。児童達が満足いく対話をすることができる授業にするためのマネジメント能力も我々にとって必要である。
- ・児童にとって考える必要感のある課題・発問でなければ、前のめりな対話は生まれず、学びも深まることはなかった。やはり、教材研究が大切である。
- ・SSTや学級力会議を実施することで、自己コントロールを学び、自治的な関係づくりもできてきていることを考えると、今後のSSTや学級力会議の時間確保が大きな課題となる。

○普及

- ・米子市人権・同和教育研究集会や中学校区人権教育研究発表会を通して、研究の成果を伝えた。その際、多くの助言や提案をいただいたので、それを研究会後の日々の学習に活かすように取り組んでいる。
- ・今年度発信した「授業づくりと学級づくりは、相互に関連しており、授業の中で学級の雰囲気や好ましい人間関係がつくられ、また、安心・安全な学級の雰囲気が充実した学習につながる」という考えを引き継ぎ、確かな学力の育成につながる授業づくりを今後も進めていく。
- ・今年度も取り組んできた知的好奇心を喚起する魅力的な課題提示やつきたい力と見通しをもった授業の研究、人権の視点と対話的な学びの指導案への記述、めざす対話の姿の系統性の再確認といったことを今後も継続し、児童に確かな学力をつけていく。SSTや学級力会議等も継続し、望ましい人間関係を築く力を育成していく。

(2) 実施結果

時 期	内 容	備 考
4月3日 5日 24日	校内研修第1回 校内研修第2回 第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者全教職員 参加者全教職員 参加者9人
5月8日 20日 29日 30日	校内研修第3回 校内授業研究会（校内研修第4回） 支援学級授業 校内授業研究会（校内研修第5回） 6年1組 道徳「奉仕する心」三村直樹教諭 指導助言 県教育委員会人権教育課 松井貴宏指導主事 校内授業研究会 5年2組 算数「小数÷少数」桑原憲生教諭 指導助言 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官 笠井健一 氏	参加者全教職員 参加者全教職員 参加者全教職員 参加者40人
6月5日 10日～14日 17日～20日 26日	校内授業研究会 2年1組 道徳「友だちのために」伊藤恵美教諭 指導助言 県教育委員会西部教育局 玉木敦子指導主事 第1回Q-U調査の実施と分析 ほっと相談 校内授業研究会 5年2組 道徳「公平な心」河村清教諭 指導助言 県教育委員会人権教育課 松井貴宏指導主事	参加者全教職員 参加者全教職員

7月3日	部会授業研究会 2年2組 算数 田淵正人教諭	参加者10人
19日	校内研修：1学期教育反省	参加者全教職員
23日	校内研修：研究大会に向けて	参加者全教職員
27日～28日	日本道徳基礎教育学会 筑波大学附属小学校	参加者1人
8月8日	校内研修：模擬授業を生かした指導案検討	参加者全教職員
20日	校内研修：教育課程報告、紀要原稿チェック	参加者全教職員
21日～22日	大阪府人権教育夏季研究会参加	参加者1人
9月18日	校内授業研究会 ほし1組 算数 門永美恵子教諭 指導助言 市教育委員会学校教育課 山下 英担当課長補佐	参加者全教職員
25日	校内授業研究会 3年1組道徳「友だちとしんらいしあう」山本良江教諭 指導助言 市教育委員会学校教育課 乗本 学課長補佐	参加者全教職員
30日	校内授業研究会 1年2組 道徳「勇気を出して」加藤隆文教諭 指導助言 県教育委員会西部教育局 玉木敦子指導主事	参加者全教職員
10月7日	校内研修	参加者全教職員
10日	校内研修	参加者全教職員
11日	部会授業研究会 6年2組学活 濱田聡子教諭	参加者10人
23日	校内授業研究会 4年1組 道徳「美しいもの、気高いもの」 松田和子教諭 指導助言 市教育委員会学校教育課 乗本 学課長補佐	参加者全教職員
28日～1日	第2回Q-U調査実施と分析	
11月12日～	ほっと週間	
15日		
13日	部会授業研究会 3年2組 音楽 松崎真理講師	参加者10人
15日	研究会指導助言者との打ち合わせ	本校2人 指導助言4人 各部会毎
19日	当日授業シュミレーション	
20日	当日授業シュミレーション	
25日	校内研修：分科会打ち合わせ	参加者全教職員
29日	米子市中学校区人権教育研究発表会  成果刊行物印刷・配布 指導助言 県教育委員会人権教育課 松井貴宏指導主事 県教育委員会西部教育局 玉木敦子指導主事 市教育委員会学校教育課 乗本 学課長補佐 山下 英担当課長補佐	対象：米子市教職員 250部 配布先： 教育委員会 米子市小学校 研究会参加者
12月	学校評価アンケート	
25日	校内研修：2学期教育反省 研究推進委員会	参加者全教職員 参加者8人
1月23日	米子市人権・同和教育研究集会	参加者6人
29日	校内研修：次年度に向けて	参加者全教職員
2月10日	第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 人権教育研究推進事業報告会 人権学習に関する意識調査	参加者1人 参加者1人
実施予定		

(3) 人権教育に係る年間指導計画 別紙参照